

● 芸劇、 変身中。

2012年9月、 東京芸術劇場 リニューアル オープン

1 号

SUMMER 2011

東京・池袋にある東京芸術劇場。

今年の4月から来年の8月まで、全面的な改修工事を行います。

本拠地のないこの期間も芸劇は立ち止まりません。

「芸劇、変身中。」は芸劇の歩みをお知らせするフリーペーパーです。

新しい価値観が 生まれそうな池袋の そのまた自由の王国 東京芸術劇場

北川フラム

改修工事が始まり、仮設の白い塀に囲まれた東京芸術劇場。この仮囲い塀は各面がさまざまに使われます。お楽しみに



東京芸術劇場改修時の工事現場仮囲いのデザインのトリモチをする北川フラムです。コンニチハ。仮囲いではアーティストが地域の子供たちとワークショップをして、劇場の面白さを道行く人に知ってもらい、芝居のもつ奇想天外、夢、幻の世界の一端でも伝えられたらと思います。こんな役割を貰えてとても嬉しい!

考えるにこの嬉しさには二つの理由があります。

まず、池袋が好きだということ。池袋の駅周辺には多種多様な人がいるし、街も雑然としている。今や東京のターミナルは無菌状態、映画『ブレードランナー』に出てくる硬直した、冷たい、建築素材だけの表情のない風景になりました。ここからは何も生まれません。せいぜい効率よく稼ぐ方法がでてくるくらいです。飲食、量販店、映画館、風俗、これに役所、豊島公会堂、サンシャイン、それに三つの劇場と図書館、大書店がある。ディケンズのロンドンのような気配があります。池袋からは一元的社会に風穴をあける新しい価値観が生まれてきそうなのです。東京は機能第一施設中心の巨大都市になりましたが、人間の自由な活動が優先されるインキュベーションの場ではなくなりつつあります。ターミナルでは池袋だけがその可能性をもっていると思います。

もうひとつは芝居が好きだということ。そこは一人ひとりの役者の人間ドラマが花咲く場所だし、国家、私有財産、家

族の重さに呻吟する私たちの日常を飛び越した、非日常的な断層の世界が見えます。今ある社会が唯一の必然だと思わないでいい自由な王国がある気がします。池袋にあることで、プロによるプロのための教養科目から芝居が救われるのではないのでしょうか。

野田秀樹さんの『南へ』が東日本大震災の中止のあと、再開された初日の舞台を見ることができました。震災の現場でも、祭りの復活を望む声があり、この災禍の中でこそ人間の活動の喜びを作っていきたいとの話を聞きます。『南へ』の素早い再生で、遊芸、歌舞音曲に携わる人間の覚悟が知れ、東京芸術劇場の可能性を改めて知り、嬉しかった。



きたがわ・ふらむ

アートディレクター。1946年新潟県生まれ。東京芸術大学卒業。地域づくりの実践として、「越後妻有アートトリエンナーレ」、「水都大阪」(2009)、「瀬戸内国際芸術祭2010」で総合ディレクターを務めるほか国内外で活動。2003年フランス共和国政府より芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。2006年度芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)受章ほか。豊島区文化政策推進プラン策定委員会委員長。この春、東京芸術劇場の運営委員に就任し、リニューアル後の劇場と地域とのかかわりについて思索中。

改修レポート

どうなるの芸劇

始まりました編

① 改修工事いよいよ開始

4月から休館に入り、まずはスタッフの引っ越しをはじめ、とにかく建物を空にすることが改修工事のための第一段階。館内あちこちに飾られている美術品からホールの緞帳、ピアノや照明・音響機材、ベンチ、チラシラック、小さな備品にいたるまで、とにかくいったん取り出さなければなりません。仮事務所に持っていくもの、倉庫に預け入れるもの、廃棄するもの、膨大な物の整理に埃と疲労が増すばかりです。

撤去作業が一段落したある日、工事に関わる各社が集まり顔合わせが行われました。各社の役割や意気込みが順繰りに紹介される中、設計チームからは「この劇場は20年経って改修を迎えました。建て替えという選択肢もあったかもしれないなか、この建物を修繕して使おうということになった。では、私たち改修に携わる者たちの仕事は何か。改修が終わってさらに20年経ったときに、“この建物はやっぱり残そう” “この劇場はここにこの形でなければ” と都民の皆様と言われるような仕事を残すことです。そして20年後の改修チームは私たちがどんな仕事をしたのかつぶさに点検することになるでしょう」という言葉が出、士気が上がりました。20年後、ここに東京芸術劇場がなければならぬと言われるかどうかは建物のみならず、運営し、お客様を迎え、作品を届け、地域とつながっていく劇場スタッフの仕事でもあり、一同襟を正して聞いていました。

劇場エントランスを入った大きな吹き抜けアトリウムに入った2台の大型クレーン。吊ってある美術品の撤去作業が慎重に行われた。その下に見えている大エスカレーターはどうやって取り外すのだろうか

② リニューアルオープン後は？

当劇場を所管する東京都文化振興部の松井真司課長に聞きました。

「開館から20年経って初めての大規模修繕です。修繕ではありますが、アトリウムの大エスカレーターが外されたり、大ホールには客席階へ続くエレベーターが増設されたりするほか、見た目や快適さの面でもずいぶん違いを感じていただけたと思います。

芸劇は野田秀樹芸術監督が就任してから劇場が作品を制作したり、人気のある演目を上演できるようになってきました。その流れから、リニューアルオープンにどんな演目がそろえるのか期待していただきたいところです。いずれ皆さんに詳しくお知らせします。

リニューアルオープン後もより多くの人に芸劇へ足を運んでいただけるようにするために、今、劇場のスタッフと一緒に演目の企画から施設貸し出しの方法、館のサービスにいたるまでさまざまな面で話し合い、力を合わせています。

震災がありさまざまな方から工事への心配の声をいただきますが、今のところ工期に直接的な影響は出ていません。公立文化施設の役割を以前にも増して問われる時代になったと感じていますが、それに応えられる劇場に育ってほしいと思っています。」

東京都生活文化局文化振興部
松井真司文化施設担当課長

③ 劇場スタッフが現場見学に

6月下旬、ずっと工事関係者以外立ち入り禁止だった現場に、劇場スタッフの見学が実現。短い時間、限られた場所ながら久々に劇場に足を踏み入れました。

新しく増設されるギャラリーはもちろんのこと、どのホールもまだ新しくなる姿の予感はなく、客席が外されたガランとした空間に取り壊しの大きな音が響き渡っていました。

今、改修現場を囲んでいる仮設の塀の一部には「芸劇、変身中。」の巨大ステッカーが貼られています。表紙で北川フラムさんが触れているように子どもたちが参加するアート作品のプロジェクトなども始まります。池袋西口、芸劇の前を通りかかる時にはぜひ1周してみてください。

★次号では大ホールやオルガンについてとりあげる予定です。



「上」見学会に参加し説明をきく福地茂雄館長はじめスタッフたち
「下」改修工事の影響を受けにくい取り外したパイプオルガンのパイプなどが現場の一角で搬出されるまで保管されている。その数は千を超える。「これ全部、組み立てて元に戻るのかな」素朴な心配

活動レポート

芸劇eyes番外編

『20年安泰。』@水天宮ピット 大スタジオ

写真:田中亜紀

2011年6月24日(金)～27日(月) 全7回公演

出演団体 | ロロ、範宙遊泳、ジエン社、バナナ学園純情乙女組、
マームとジプシー(上演順)

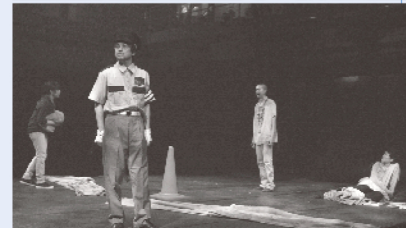


若手アーティストに活動の場を提供する「芸劇eyes」は、注目劇団との提携公演で2009年の開始より早くも2年で芸劇の名物企画に成長。3年目となる今年は、初の劇場主催公演として、5つの団体を25分ずつ上演するショーケース形式で行いました。参加団体をセレクトしたのは、eyes企画の立ち上げ当初から関わってくださっている演劇ジャーナリスト・徳永京子さん。活動開始から5年未満の団体と、都立の劇場である芸劇が会うという、挑戦的なプログラムとなりました。

注目の5団体を一気に見る機会を逃すまいと、前売り完売のみならず、当日券売場には熱いお客様が長蛇の列。おかげさまで大盛況のうちに千秋楽となりました。『20年安泰。』を機会に、お気に入りの団体を見つけた方も多かったようで、短編ながら5団体とも持ち味を発揮できたと言えます。もちろん中には厳しいご意見もありましたが、演劇愛ゆえの叱咤激励で、団体にとっても芸劇にとっても刺激になるものばかりでした。

また、ポストトークが、参加団体の演出家5名と、ケラリーノ・サンドロヴィッチさん、青木豪さん、多田淳之介さん、宮沢章夫さんという先輩演劇人の出会いの場となったことも、成果のひとつです。20分程度の短い時間でしたが、終了後も楽屋で話す姿が見られたのは、芸劇としてはうれしいコマでした。

▶上から順に『夏が!』(ロロ)、『うさ子のいえ』(範宙遊泳)、『私たちの考えた移動のできなさ』(ジエン社)、
『バナナeyes★芸劇大々大々大作戦!』(バナナ学園純情乙女組)、『帰りの合図、』(マームとジプシー)



劇場はないけれど

東京芸術劇場 夏以降のラインナップ

Theatre Arts for Children and Teens

TACT/FEST

TACT/FESTIVAL TOKYO
国際児童青少年芸術フェスティバル東京文化発信
プロジェクト

2011年8月2日(火)～4日(木)

[会場] 水天宮ピット

旧都立日本橋高校／箱崎中央公園隣り
東京メトロ半蔵門線 水天宮前駅2番出口 徒歩2分演目すべて
観覧無料!!

TACT/FESTIVAL2010より(於:東京芸術劇場ロワー広場) ©田中亜紀

「ひつじ」(カナダ) 対象年齢:制限なし

3日(水) 15:15／4日(木) 14:15

子どもから演劇批評家までとりこにした人気演目!
ひつじの生態を徹底観察したおもしろインスタレーション。

◆観覧フリー

「飛行隊」(カナダ) 対象年齢:4歳以上

3日(水) 18:30／4日(木) 17:30

「ひつじ」でおなじみのカンパニー「コープス」のレパートリー。
観客も参加する飛行訓練を展開します。

◆事前申込制

ガムランと影絵

「ビモ・ボトッ〜ビモのおにたいじ」

(インドネシア) 対象年齢:制限なし

3日(水) 16:00／4日(木) 15:00

インドネシアの伝統芸能。
ガムランと精巧な影絵が堪能できます。

◆事前申込制

ワークショップや大道芸にチャレンジできるコーナーも!
観覧や参加の申し込み方法など、詳しくは劇場HPまたはお電話で。

PLAY

世代の異なる劇作家が
自作を朗読し、語り合うTOKYO LIVE
READING(仮)〈全4回〉

第1回 | 岩松 了 × 松井 周

2011年9月3日(土)

[会場] 水天宮ピット 大スタジオ

PLAY

演劇賞総なめの衝撃作、再び。
野田秀樹初のワールドツアー

THE BEE 原作:筒井康隆 共同脚本:野田秀樹&Colin Teevan 演出・出演:野田秀樹

◆ワールドツアー(英国人キャスト・英語上演) CO-PRODUCTION WITH SOHO THEATRE, LONDON

2012年1月N.Y.で開幕! ロンドンほかをへて、東京公演(水天宮ピット) 2～3月

[東京公演会場] 水天宮ピット 大スタジオ ★ワールドツアーは東京文化発信プロジェクト事業です。

◆ジャパントツアー(日本人キャスト・日本語上演) 2012年4月～6月

出演:宮沢りえ、池田成志、近藤良平、野田秀樹

◇ジャパントツアーのお問合せ:NODA・MAP ☎03-6802-6681

MUSIC

"モーツァルトが聴いた音"をコンセプトに贈る
オリジナル楽器オーケストラによる
モーツァルトの協奏曲集!クラシカル・プレイヤーズ東京
演奏会

2012年2月11日(土)

[会場] 東京文化会館 小ホール

指揮・フルート:有田正広、ヴァイオリン:弓 新
クラリネット:満江菜穂子 ホルン:大野雄大

©Hikaru★

MUSIC

首都圏8音大の選抜オーケストラによる、
音の競演がいよいよ実現!音楽大学フェスティバル・
オーケストラ演奏会2012

2012年3月24日(土)

[会場] 東京文化会館 大ホール

指揮:外山雄三

音楽大学フェスティバル・オーケストラ

[お問合せ] 東京芸術劇場 リニューアル準備室 ☎03-5391-2111(平日9:00～17:45)

施設の貸出が始まっています。

リニューアルオープン後のホールをはじめとした施設の貸出について一部受付を開始しています。
劇場HPでお知らせしているほか、東京芸術劇場 リニューアル室ではお電話でのお問い合わせを承ります。

東京芸術劇場情報誌「芸劇、変身中。」 第1号 2011年7月31日発行 (不定期発行)

編集・発行……東京芸術劇場リニューアル準備室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

〒171-0032東京都豊島区雑司が谷3-1-7 千登世橋教育文化センター地下1階

電話 03-5391-2111 http://www.geigeki.jp/

デザイン……川島弘世